

人権同和問題啓発ビデオ

同級生



地域や家族で子どもたちに同和問題を正しく伝え、差別を温存・助長するものは何か考えてみましょう。



あらすじ

小学5年生の河瀬早苗は父・敏也の転勤で東京から滋賀県へ引っ越してきたが、転校先の学校では級友の哲生と裕太からいじめを受けていた。

ある日、早苗は気分をまぎらわそうと湖岸にスケッチに出かけ、そこで偶然にも父の同級生・守から声をかけられる。守は元気がない早苗を励まそうと、妻の園子が指導する和太鼓クラブに連れて行き、娘の理菜を紹介する。早苗は明るくやさしい理菜の気持ちにふれ、和太鼓クラブに入部したいと敏也に懇願する。しかし、敏也は和太鼓クラブへの入部を強固に反対する。実は敏也には30年前につらい思い出があった。その頃守と敏也は、同じ美術部で親友同士だった。しかし、敏也は、部落差別が原因でいじめられていた守とつき合っていることで自分までもいじめられそうになり、二人の友情の証である文化祭への出品作を、守の目の前で破り捨てた。そのことが原因で二人の関係は気まずくなり、敏也も父親の仕事の関係で転校し、物別れとなってしまうていたのだ。

敏也に内緒で和太鼓クラブに通っていた早苗は理菜の母・園子の話から、父が反対するのは部落差別が原因であることを知る。

「早苗がいじめられないか心配だから...」と答える父の話を聞き、早苗は和太鼓クラブへ行くのを一旦はやめようとするが、いじめから守ってくれる理菜の温かい思いやりの心にふれ再び練習に思い始める。そして、理菜と共に父親同士の友情を取り戻させようと計画をたてる。

早苗と理菜の思惑通り、敏也と守は思い出の場所で再会する。30年間悩み悔やんできた敏也は、自分の弱さのため二人の友情を一方的に破棄したこと、また早苗の問題でも同じあやまちを犯しそうになったことを守に詫び、今度こそ部落差別と正面から向き合っていくことを決心する。

一方、早苗をいじめていた哲生と裕太も理菜の言葉をきっかけに早苗に謝り、四人は仲直りする。そして哲生と裕太も和太鼓クラブに入部する。数日後、和太鼓クラブでは、仲良く一生懸命練習する子どもたちと、それを見守る敏也、守、治美、園子の姿があった。



CAST キャスト

河瀬 早苗	由比 あすか
木下 理菜	山下 詩穂子
河瀬 治美	上楽 敦子
河瀬 敏也	下塚 誠
少年時代 敏也	白井 拓巳
木下 守	草川 祐馬
木下 園子	町野 あかり
少年時代 守	杉山 翔哉
哲 生	井前 隆一朗
裕 太	山元 佑馬

制作の意図

同和問題は多くの人々の努力によって解決に向けて進んでいます。しかし、今なお生まれたところや住んでいる場所によって人権が侵害され、苦しみや心の傷を受けたり不利益をこうむったりする現実があります。私たちは、みんなでその一日も早い解決を目指していく必要があります。

同和問題を解決していくうえで課題の一つに家庭教育のあり方が問われています。子どもたちの同和問題との出会いは、義務教育を終了するまでが一番多く、そのきっかけは、父母、家族、友だちや近所の人などの「身近な人との日頃の会話」を通じてによるものが多くなっています。社会に対する認識力や判断力が十分でない子どもの頃に、誤った認識をもたないよう正しく教えられることが何よりも大切です。

この作品は、30年前、部落差別が原因で物別れになってしまった二人の父親が、子どもたちや家族同士のふれあいの中で再び部落差別と向き合いながら友情を取り戻していく姿を描いています。この作品を通して、自分自身の心をつめることの大切さ、人として生きるうえで親が子どもに伝えなければならないことは何か、今一度、家庭における教育の大切さを考えるための手がかりにさせていただきたいと思います。そしてこのビデオ教材が、差別のない明るい社会の実現に向けての実践への一助となることを願っています。

STAFF スタッフ

プロデューサー 井之上綾子 / 脚本 中山由美子 / 撮影 沢井 昭 / VE 堀江 等 / 照明 大穂 勝美 / 録音 四方 裕幸 / 編集 加納 卓

整音 サウンドステーション / スチール 井ノ阪一男 / 衣装協力 グラン山貴 / 監督 家喜 俊彦

日本語字幕版あり 上映時間30分

●お申し込み・お問い合わせは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp

